

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

猿払圏域は猿払村の1村で構成され、漁業協同組合は1漁協（猿払村漁業協同組合）がある。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

当圏域の主要漁業ははたて桁びき網漁業、さけ定置網漁業、けがにかご漁業である。令和元年における漁獲量はホタテガイが48,370トン、サケ・マス類が1,033トン、ケガニが104トンとなっている。

当圏域は日本で初めてホタテガイ稚貝の大規模放流を実施した地区であり、現在も稚貝の育成・放流を行うことにより、つくり育てる漁業を実施している。また、サケ・マスは北海道と民間団体との協力体制のもとで人工ふ化放流が行われている。

③ 水産物の流通・加工の状況

当圏域内で水揚げされたホタテガイは、流通拠点漁港である浜鬼志別漁港へ集約された後、圏域内の加工場で干し貝柱や玉冷に加工され、道内はもとより中国・アメリカ方面へ流通している。また、当圏域内の一部海域ではホタテガイの対EU輸出生産海域の指定を受けており、EU方面への輸出にも取り組んでいる。

その他の魚種については、各漁港で水揚げされた後流通拠点漁港である浜鬼志別漁港に集約され圏域内外に出荷される。

④ 養殖業の状況

当圏域のホタテガイ養殖業は、地撒き漁場を4区画造成し漁場ごとに4年に1度小型底びき網漁業を行う4輪採制と呼ばれる特徴ある操業形態を採用している。種苗については、圏域外から購入した稚貝を使用している。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

猿払村漁業協同組合の組合員数は243人である。当圏域の組合員数は減少傾向ではあるが、後継者育成に力をいれており今後とも新規着業者の参入が見込まれる。

⑥ 水産業の発展のための取組

EU へのホタテガイの輸出を促進するため、水揚げや搬送等の際に「北海道対EU輸出ホタテガイ管理要領（宗谷南部海域）」を遵守した体制となるよう、民間加工場を交えた研修会を開催し、安全衛生管理の検証・強化を行っている。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

衛生管理の向上を図るための屋根付き岸壁等の整備が求められているほか、漁船の大型化や定置網の増統により係留施設や用地が不足しており、これら施設の整備が求められている。

漂砂や河川からの砂による航路及び泊地の埋塞対策として、継続した維持浚渫を行う必要がある。

漁港施設の老朽化が進行しており、機能保全計画に基づいた補修が必要である。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

当圏域内の各漁港において、現在のところ統合や廃止、再編等の予定はない。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	流通拠点型	設定理由；第2種浜鬼志別漁港に産地市場を有し、消費地や加工場等へ出荷している。
② 圏域範囲	猿払村	設定理由；流通拠点漁港への水産物の集約が及ぶ範囲である猿払村の範囲を設定した。
③ 流通拠点漁港	第2種浜鬼志別漁港	設定理由；産地市場を有し、圏域内の水産物が集約されている。今後、高度衛生管理(L2以上)を導入し耐震岸壁を整備するなど、圏域内での流通拠点としての機能を整備していく。 災害時の漁港利用者の避難対策については今後検討していく予定

		<p>である。</p> <p>衛生管理施設の整備により、商品の高品質化を目指しており、水産物のブランド化にも取り組んでいる。</p> <p>主要魚種のホタテガイについては、「さるふつ観光まつり」で格安販売が行われる等、地域水産業の振興上重要な役割を担っている。</p>
④ 生産拠点漁港	<p>第 2 種知来別漁港</p> <p>第 1 種浜猿払漁港</p>	<p>設定理由；ほたて桁びき網漁業を主体としており、地先に優れたホタテガイの漁場を有し、猿払圏域におけるホタテガイの生産基地として中核的役割を果たしている。</p> <p>設定理由；さけ定置網漁業を主体としており、地先に優れたサケ定置網漁業の漁場を有し、猿払圏域におけるサケの生産基地として中核的役割を果たしている。</p>
⑤ 輸出拠点漁港	<p>第 2 種浜鬼志別漁港</p> <p>第 2 種知来別漁港</p> <p>第 1 種浜猿払漁港</p>	<p>設定理由；流通拠点漁港であり、ホタテガイの生産量が多く、輸出を行っている。</p> <p>高度衛生管理(L2以上)を導入し、輸出の拡大を推進する予定である。</p> <p>設定理由；生産拠点漁港であり、ホタテガイの生産量が多く、輸出を行っている。</p> <p>高度衛生管理(L2以上)を導入し、輸出の拡大を推進する予定である。</p> <p>設定理由；生産拠点漁港であり、サケ・マス類の生産量が多く、輸出に取り組む予定である。</p>

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	49,827	圏域の登録漁船隻数(隻)	261
圏域の総漁港数	3	圏域内での輸出取扱量(トン)	12,092
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数			

⑥養殖生産拠点地域について

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	猿払
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	ホタテガイ
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量（収穫量）(トン)	48,370 トン
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	7,091

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

輸出促進への対応のため、流通拠点漁港で屋根付き岸壁の整備等による水産物の衛生管理、鮮度保持を図る。

また、総合的な衛生管理体制を確立させるため、関係者の衛生管理意識の向上や施設の効果的運用を図るためソフト施策を講じて行く。

生産・流通機能の強化のため、漁船の大型化に対応した係留施設の整備や用地造成等を行う。

②養殖生産拠点の形成

当圏域内の各漁港において、現在養殖生産拠点の形成に係る整備予定はないが今後の状況による。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

当圏域は、地蒔きによるホタテガイの一大産地となっており、海外需要の増大、単価の上昇等が見込まれる魚種であり、地域経済を支えている。しかし、近年の気候変動に伴い爆弾低気圧や台風が頻発し、浅い水深帯のホタテガイが斃死するなどして生産が不安定となっている。

また、当圏域は日本海北部海域で産卵・ふ化したマガレイ等カレイ類が海流により回遊着定し、稚魚期から未成魚・成魚になるまで成長する場として利用されていることがわかっているが、近年それらカレイ類の漁獲量は減少傾向にある。

以上のことから、漁場の再編を行い高波浪等の影響を受けにくい海域へホタテガイ漁場の拡大を行うほか、沖合におけるマガレイの幼稚魚育成場を整備する。

②災害リスクへの対応力強化

近年の波高の変化への対応や、頻発する台風低気圧等による被害を防ぐために防波堤や護岸等を整備する。

地震などの大規模な自然災害に備えた耐震岸壁を整備する。

老朽化が進み更新需要が増大する漁港施設及び漁業集落排水施設について、持続可能なインフラ管理の推進のため、予防保全型の老朽化対策を行う。事業継続計画（BCP）を策定しており、被災後の地域水産業の早期再開を推進する。

(3)「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

当圏域内の各漁港において、現在「海業」による漁村の活性化に係る整備予定はないが、今後の状況による。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

当圏域内の各漁港において、現在女性など多様な担い手の活躍に係る整備予定はないが、今後の状況による。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1)産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
猿払	流通機能強化 輸出促進	水産流通基 盤整備事業	浜鬼志別漁港	2	○
猿払	流通機能強化 輸出促進	水産流通基 盤整備事業	知利別漁港	2	

・屋根付き岸壁を整備することで衛生管理体制の向上を図り、水産物の海外輸出を促進する。

・漁船の大型化による施設の不足に対応して岸壁や用地を整備することで、漁業活動の効率化を図り生産・流通機能を強化する。

②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
オホーツク海	環境変化、資源管理	水産環境整備事業

・過去に設置した魚礁の移設を行うことにより、移設元である高波浪等の影響を受けにくい海域にホタテガイ漁場の拡大を行い、併せて移設先ではマガレイの幼稚魚育成場として魚礁を活用し、漁場の再編を行う。

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
猿払	安全・安心	水産流通基盤整備事業	浜鬼志別漁港	2	○
猿払	安全・安心	水産流通基盤整備事業	知来別漁港	2	
宗谷	予防保全	機能保全事業	浜鬼志別漁港	2	○
宗谷	予防保全	機能保全事業	知来別漁港	2	
宗谷	予防保全	機能保全事業	浜猿払漁港	1	
浜猿払	安全・安心	漁港施設機能強化事業	浜猿払漁港	1	

・漁港施設の耐震化を行い、大規模な自然災害が発生した際の漁港機能の維持・早期回復を図る。

・老朽化が進んだ漁港施設について、機能保全計画に基づいた補修工事を行うことで漁業活動の安全性を確保する。

・防波堤の延伸を行うことで、近年の波高の増大等により悪化していた泊地及び航路の静穏を確保し漁業活動の安全性を確保する。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点

4. 環境への配慮事項

工事の実施に当たっては、環境に悪影響を与えないよう施工時期等に配慮するほか、サケが遡上する河川を港外に切り替える際は、サケに配慮して事業を進める必要がある。

また、天然礁や既存魚礁を含め、沿岸の藻場から沖合の魚礁漁場まで魚類などの一体的な生活空間が創造され、幼稚魚や未成魚の保護・育成効果が期待できる。

5. 水産物流通圏域図

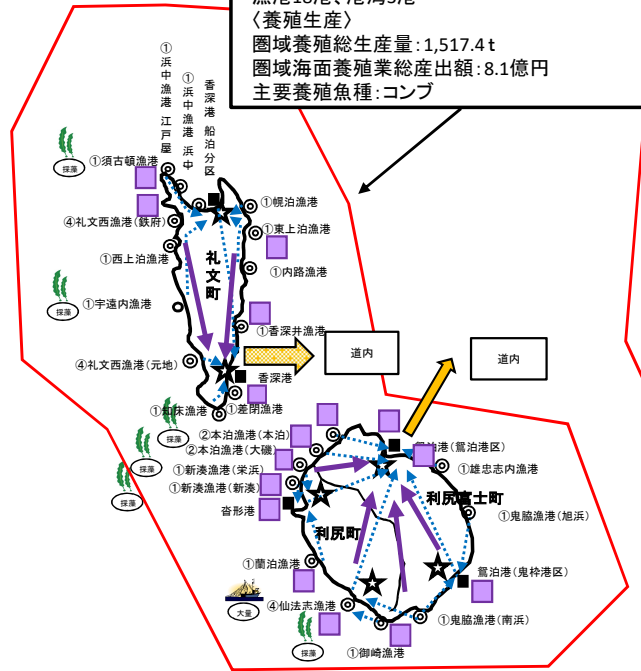
別紙のとおり

北海道 宗谷総合振興局水産物流通圏域図

利尻・礼文圏域

流通拠点(外海離島型)

圏域総陸揚量:16,570.5 t
 圏域総陸揚金額:55億円
 漁港18港、港湾3港
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量:1,517.4 t
 圏域海面養殖業総産出額:8.1億円
 主要養殖魚種:コンブ



宗谷北部圏域

流通拠点(一般型)

流通拠点:東浦漁港(第4種)
 圏域総陸揚量:53,742.8 t
 圏域総陸揚金額:151億円
 漁港8港、港湾2港
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量:47,149.5 t
 圏域海面養殖業総産出額:95億円
 主要養殖魚種:ホタテガイ

猿払圏域

流通拠点(一般型)

流通拠点:浜鬼志別漁港(第2種)、知来別漁港(第2種)
 圏域総陸揚量:49,827.9 t
 圏域総陸揚金額:82億円
 漁港3港
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量:48,370.8 t
 圏域海面養殖業総産出額:70億円
 主要養殖魚種:ホタテガイ

頓別圏域

流通拠点(一般型)

流通拠点:頓別漁港
 圏域総陸揚量:13,643.1 t
 圏域総陸揚金額:31億円
 漁港2港
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量:12,547.6 t
 圏域海面養殖業総産出額:19億円
 主要養殖魚種:ホタテガイ

枝幸圏域

流通拠点(一般型)

流通拠点:オホーツク枝幸漁港(第2種)、オホーツク枝幸北漁港
 圏域総陸揚量:53,340.2 t
 圏域総陸揚金額:110億円
 漁港2港、港湾1港
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量:37,708.0 t
 圏域海面養殖業総産出額:67億円
 主要養殖魚種:ホタテガイ

● : 流通拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港)

◎ : 生産拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港)

○ : 一般漁港

■ : 港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)

☆ : 産地市場

漁業: 主な魚種

(主な漁業種が、(大船) (巻き網・底引き網等、) (小船) (曳船) (魚籠) の場合は示す)

← : 水産物集約 (漁船陸揚げ)

← (点線) : 水産物集約 (陸送)

◻ ← : 加工場・消費地への出荷

(主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、県外を示す。輸出している場合は、輸出先の国等をしてできる限り示す。)

← (波線) : 養殖に係る水産物の流れ

← (紫) : 養殖漁場

50t 未満	→
50~100 t	→
100~500 t	→
500~1000 t	→
1000~5000 t	→
5000t 以上	→

